

誌上相談室 Q&A

[テーマ]

若い女性に急増中!? 子宮頸がんと乳がん



20~30代の「女性特有のがん罹患率」では、子宮頸がんが1位、乳がんが2位です。特に、ここ数年若い女性の子宮頸がんが急増しています。有名人が病気を発表したことなどから、子宮頸がんや乳がんがマスコミに取り上げられることも多くなりました。どちらも早期発見であればほとんどが治せる病気ですが、検診を受けているのは3人に1人程と少ないのが現状です。初期のがんは自覚症状がないことも多いため、定期的な検診による早期発見が大切です。

1. 子宮頸がんについて

Q1 子宮頸がんはどんな病気?

A 子宮の入り口付近子宮頸部にできるがんを子宮頸がんといいます。通常一定の時間をかけゆっくり変化するため、定期的な検診により、がんになる前の状態を見つけることが可能です。

Q2 子宮頸がんの原因は?

A ヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスの感染が原因です。ウイルスに感染しても免疫機能により自然に排除されますが、ウイルスが排除されずに長期間感染が続く場合があり、ごく一部の人は細胞ががん化することがあります。

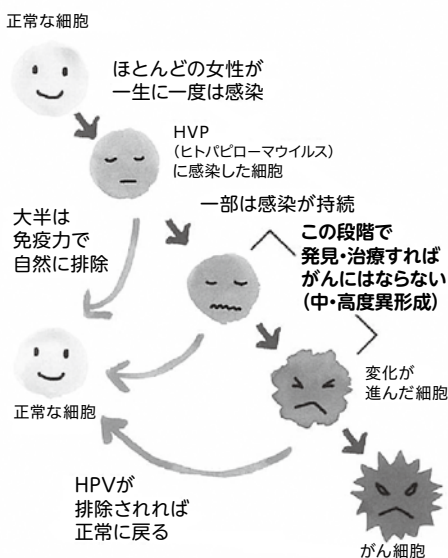
Q3 HPVとは?

A HPVは主に性交渉により感染します。女性の約80%が一生に一度は感染するとと言われるありふれたウイルスです。HPVは150種類以上あり、このうち約15種類が発がん性HPVです。HPV検査を行うと、将来のがんの危険性を調べることが出来ます。

Q4 どんな検査?

A 子宮頸がん検診では、細胞診を行い

正常な細胞が子宮頸がんになるまで



・ 初潮年齢が11歳以下
・ 出産経験がないまたは初産年齢が30歳以上
・ 肥満(特に閉経後)

Q3 どんな検査?
A 乳がん検診では、マンモグラフィや超音波などの画像検査を行います。マンモグラフィは、プラスチック板で胸を挟み撮影する乳房専用のX線検査です。超音波検査は、ゼリーをつけた超音波器具をあて、乳房全体を調べる検査です。乳

ます。小さなブラシなどで子宮の入り口の粘膜を軽くこすり、細胞を採取します。1、2分で終わり、痛みはほとんどありません。細胞は顕微鏡検査に提出され、異常な細胞がないかの判定が行われます。

Q5 検診の流れは?

A 問診→内診→細胞診の順で行います。医療機関により違いはありますが、5分程度です。問診は、月経の状況や自覚症状の有無などをお聞きします。内診は、子宮頸部の状態を観察し、子宮の形や大きさ、炎症の有無などを確認します。

2. 乳がんについて

Q1 乳がんはどんな病気?

A 乳がんは、乳房の乳腺(母乳を作るところと運ぶ管)からできる悪性腫瘍です。女性の12人に1人が乳がんと診断されています。近年、乳がんにかかる人は30代から増加しています。

Q2 乳がんの原因は?

A 原因は特定されていませんが、乳がんのリスク要因はいくつか考えられています。

・ 母親や姉妹に乳がんの方がいる

・ 初潮年齢が11歳以下

・ 出産経験がないまたは初産年齢が30歳以上

・ 肥満(特に閉経後)

Q3 どんな検査?

A 乳がん検診では、マンモグラフィや超音波などの画像検査を行います。マンモグラフィは、プラスチック板で胸を挟み撮影する乳房専用のX線検査です。超音波検査は、ゼリーをつけた超音波器具をあて、乳房全体を調べる検査です。乳

腺が多い30代までの方には、被曝のない超音波検査がお勧めです。

Q4 自分で確認する方法は?

A 自己検診があります。月経終わりの張りや痛みの少ない時に、お風呂で行いましょう。

(1) 鏡の前で形をチェック

引きつれや陥没、大きさの左右差を確認。

(2) 全体を触る

ボディソープなどで滑りを良くし、脇の下から乳首まで円を描くように触る。硬いしこりがないか確認。

(3) 分泌物のチェック

左右の乳首を軽くつまみ、血液などの分泌物がないか確認。

検診で「異常なし」と言われた後も、定期的な検診は必要です。できれば1年に1度検診を受けましょう。自覚症状がある場合は、検診ではなく病院の受診をお勧めします。子宮は婦人科へ、乳房は外科または乳腺外科へご相談ください。

【回答】

医療法人社団 進興会

せんだい総合健診クリニック(青葉区一番町)



院長
石垣 洋子氏

仙台商工会議所では、期間限定で「女性ガン検診」支援サービスを実施しています。検診が割引料金で受けられますので、ぜひご利用ください。
問管理团队 (TEL 265-8125)